

令和6(2024)年度 下都賀地区小・中・義務教育学校主幹教諭・教務主任研修会研修会を開催しました

日 時：令和6(2024)年11月14日(木)

会 場：栃木市藤岡文化会館

1 研修の目的・内容等

(1) 目的

下都賀地区の学校教育を展開していく上で、主幹教諭・教務主任としての資質の向上を図るとともに、教育課程の改善や子どもの資質・能力の育成に関してカリキュラム・マネジメントの視点から研修することを通して理解を深め、各学校教育のより一層の充実を図る。



(2) 内容

○講話・演習

「一人一人の子どもが主役となる授業づくりに向けて」

～意図的・計画的な主幹教諭・教務主任の関わり～

講師 小山市立絹義務教育学校 教頭 玉野 直子先生

2 本研修で確認したこと

(1) 講話から

○主幹教諭・教務主任としての役割

- ・学校運営に必要なすべての仕事
- ・教育に関する事務

学校のキーマン

○下都賀地区学校教育の重点から

- ・一人一人が参画する「本校ならではの」教育活動実現に向けた学校経営
子どもたちへ教職員・保護者・地域の思いが詰まった教育課程編成
学びの繋がりをリード チーム検討の牽引 校内研修の牽引

「チーム学校」の視点

○求められている令和の日本型学校教育

- ・子ども一人一人の可能性、多様な子どもの現状
- ・自立した学習者
- ・個別最適な学びと協働的な学び
- ・子どもに学びを委ねていく

○教務主任としての経験から

- ・授業づくりについて、先生方との関わりで大切にしたこと
- ・授業づくりに向けてのしかけ
- ・目指す子ども像の実現に向けて教育課程編成で大切にしたこと

○意図的・計画的な主幹教諭・教務主任の関わり

- ・学校教育において一人一人が輝ける場に
⇒ビジョンの共有、学校組織のリーダー的存在として、PDCAサイクルの視点を全教職員で



(2) 班別協議から

- ・「一人一人の子どもが主役となる授業づくり」に向けた実践（主幹教諭・教務主任としての意図的・計画的な関わり）の紹介と、その実践について、講話からの気付き
- ・主幹教諭・教務主任としての関わり（次年度の教育課程編成にどう生かしていくか）

3 本研修で学んだこと（参加者が記入した〈研修の振り返り〉より）

【主幹教諭・教務主任の役割】

- ・ 「学校教育目標の具現化」に向けて目標を資質・能力で捉え直し、焦点化を図って共通理解を図ること、それを私たちが先導していく立場にあるということを再認識しました。
- ・ 「チーム学校」、令和の日本型学校教育の構築、これらを達成させるためのキーパーソンとしての責任を感じました。
- ・ 教員同士のコミュニケーションの大切さや、校長の経営方針のもとにベクトルを共有してチームとして課題に取り組んでいくことの重要性を改めて実感しました。
- ・ 「この学校がどんな子どもを育てるのか」という根本の部分を常に念頭に置いて取り組むこと、全教職員がそれを理解していることが重要だと思いました。その点を教職員に想起させる働きかけをすることが教務主任の重要な役割であると再認識しました。
- ・ 先を見通した立案・計画力・コーディネーターとしての役割、学習指導・・・と教務主任に必要な能力は多岐に渡りますが、それら全ては人と円滑なコミュニケーションを取れてこそ発揮できる力と感じます。校内外のあらゆる職種、立場の人たちと積極的に関わりながら学校運営に貢献していきたいです。
- ・ 事前課題に取り組むことで、教務主任としてどのように取り組んでいくべきか、日々の業務の中で意識しました。改めて教務主任としての関わり的重要性を再確認しました。
- ・ 講話の中にあつた「省察」「視座」「問う」が心に残りました。教務主任として、一教職員として胸に刻みたい言葉だと思いました。

【「一人一人の子どもが主役となる授業づくり」への意図的・計画的な関わり】

- ・ 思考を深める問い返しや、子どもが主体的に学ぶためのしかけづくりなど、授業づくりや授業展開に必要な指導力向上への働きかけを行うための関係づくりを積極的に行っていききたいです。
- ・ 一人一人の子どもが主役となり、輝くためにも、若手とベテラン、それぞれの担当とのパイプ役となれるよう、教職員間のコミュニケーションを大切にしていきたいです。
- ・ 学習指導主任と連携しながら全校体制での取組を進めていきたいです。令和の日本型学校教育を皆で進めることで、一人一人の子どもが主役となる授業づくりにつながっていく、という視点を分かりやすく先生方に伝えていきたいと思います。
- ・ 教務主任として、先生方の主体的な取組の伴走者となることを心がけたいと思います。
- ・ まず、教職員一人一人が授業改善、授業力向上に取り組む必要があると感じました。教務主任として、若手、ベテランそれぞれがもつ強みを生かし合えるよう、情報交換、授業研究、研修等の工夫を行っていききたいと思います。
- ・ 「一人一人の子どもが主役となる授業づくり」に向けて、各教科担当に任せるのではなく、「本校ならではの」教育課程編成及び管理、校内体制の確立と研修の充実等、教務主任として先を見て企画・調整していくことの大切さを感じました。

